

開催日時：平成 21 年 8 月 25 日 16：15～19：00

場所：松山市 愛媛大学城北キャンパス グリーンホール

参加人数：65 名

#### 1. 「学生相談の現状」

講師：愛媛大学教育学生支援部学生支援課学生相談チームリーダー 武智 一正

#### 2. 「留学生支援」

講師：愛媛大学国際連携支援部国際連携課学生交流チームリーダー 和氣家 孝夫

### 講演要旨

#### 1. 学生相談の現状 ～何でも相談窓口の経験より～

愛媛大学では学生一人ひとりに学生生活担当教員がつき、学業の指導をしたり生活の相談に応じたりする役割を担っている。また、相談窓口もたくさんあり、学生は自分が行きやすいと思うところに相談できるようになっている。これらの相談窓口は相談内容によって連携をとりながら、諸問題に当たっており、それぞれの関係は一方的なものではなく、互いの情報提供・連携・サポートの上に成り立っている。

学生何でも相談窓口は、学生相談の総合窓口として、「どこに相談したらいいかわからない?」「こんなこと、相談していいのかな?」「困っているけど、どうしたらいいかわからない」といった相談の初動体制として重要な位置にいると思う。一言で相談と言っても様々な種類があり、相談内容を大きく以下の4つに区分し、実際の事例を参考にし、架空事例として紹介した。

##### ① 軽微な相談

- ・すずめが死んでいるのでどうにかしてほしい
- ・喫煙者の多いアルバイトを辞めたいがどのように話せばいいのか?
- ・訪問販売で換気扇のフィルターを買ってしまったが、金額が高すぎる、どうにかできないか?

##### ② 他部署との連携が必要な相談

- ・授業にあまり出席していない学生をサポートしてくれる部署はないか?
- ・入学予定の子供のことであらかじめ相談したいことがある

##### ③ 社会の複雑化・多様化に伴う新しい相談

- ・怪しい団体から勧誘され、名前を書いてしまった
- ・ゴミの分別ができていない学生を注意してほしい
- ・アルバイト先でのトラブル

##### ④ 事件・事故の予防につながる相談

・フェリー船上で見知らぬ人から声をかけられたことから始まり、以後、色々理由をつけて金の無心を重ねられ、総額 70 万円に及ぶ被害を受けた

よく、自分でやらせることが自立や成長を助けると言われることもあるが、「それができるのなら相談

には来ない」と考え、まず手助けをすることを心がけている。人の助けを借りることができることも社会性の第一歩だと思う。また、「難しいなあ」とか「大学には関係ないなあ」と思うような問題でも切り捨てず、できるだけ誠実に対応するよう努力している。

学生は様々で、学生支援にお手本はないが、「学生支援とは何か？」と問われれば、次のような言葉で表されるのではないかと！

「見つける」「つなぐ」「貼り合わせる」「風を通す」「切り離す」

つまり、何に困っているかを察知して、その子ができないことに手を貸しながら、よい関係を保ち、必要であれば他部署との連携をとり、広い目で全般を見渡せるようサポートし、最後に独り立ちできるようにする、ということにつけるのではないかと。

## 2.愛媛大学の留学生支援について

愛媛大学 国際連携支援部 国際連携課 学生交流チーム・リーダー 和氣家 孝夫

日本政府の「留学生 30 万人計画」により、今後 10 年間のうちに留学生数が現在の約 2 倍に増加することが予想されます。そのため、今後留学生に対する支援はますます重要になってくると思われますが、言葉や生活習慣の相違、文化や考え方の違い等、その指導には常に大きな困難が伴います。

相談に訪れる留学生の言語・文化的背景は様々で、質問内容自体は似通っていても、その対応は大きく違う場合があります。また、こちらの説明も言葉で一度言っただけで理解して貰えるとは限りません。どうしてこのようなアドバイスをするのかを、日本の文化的背景も説明しながら、わかりやすい言葉で、相手の理解度に応じて伝えるという心遣いが要求されます。しかしながら、世界中から集まる留学生の文化的背景を全て理解することは、どれほど経験豊富な担当者にも不可能です。また、留学生本人だけでなく、配偶者や子供についても相談を受けることも多く、それら全てを担当者一人で解決することはできません。

では、担当者が留学生に手厚い支援を行うにはどうすればよいのでしょうか？私たちは社会の一員であり、相互に助け合いながら生活しています。困難な事例に対しては、学生の指導教員はもとより、その友人、同じ出身国の学生、行政の方やボランティア団体の方々、地域の一般市民の方等に相談することにより、解決に至る糸口がつかめることもあります。

留学生に対しては一つの解答を押しつけるのではなく、複数のアドバイスを与えるようにします。その中から、本人にどの方法が一番良いのかを自ら選ばせることにより、問題解決を容易にし、また留学生自身の今後の大きな自信にも繋がることでしょう。

### ○演習「こんなときどうする?!」

「学生相談の現状」「留学生支援」の講演中に、それぞれ 15 分程度の時間を割いて実施した。実際には 5~6 人ずつの 11 グループを作り互いの自己紹介の後、10 分ほど事例について話し合った。グループは国立・公立・私立・高専に分けて、意見が出やすいように配慮した。これらの演習には正解があるわけではなく、参加者がいろいろな意見を出し話し合うことを目的としており、参加者からは「短時間であったが、同じような環境にいる看護職と話し合えてよかった」という声が聞かれた。

